

# 第45回「てのひら文庫賞」岐阜県読書感想文コンクール

## 最優秀賞・岐阜県知事賞作品

### 最優秀賞・ 岐阜県知事賞

4年てのひら文庫部門／読んだ本・色のまほうーカラー印刷のひみつー

## ぎもんがくれる発見

岐阜市立長森南小学校 大前遙也

ぼくの家では、毎年年がじょうをつくっている。家族みんなが移っている写真、ぼくや兄がサッカーをしている写真など、今までの年がじょうをならべて見ているだけで、なつかしい気持ちやあたたかい気持ちになる。これを見る、おじいちゃんやおばあちゃんもきつとこんな気持ちで見えてくれるのだと思う。

お父さんとお母さんと写真を決め、レイアウトや文字などを決めて、いよいよ最後にプリンターから出してできあがり。でも、たくさん作るのディンクが切れてしまう。お父さんがお母さんに、「マゼンタはあるけど、シアンが足りないみたい。」聞きなれない言葉に、ぼくは思わずインクが入っているとところをのぞきこんだ。(マゼンタって赤？ピンク？シアンは水色に似ているな。)

「これだけ？」とお父さんに聞きました。言葉では言い表せないくらいの色がある写真をきれいに印さつするプリンターには、きつと数えきれないほどのインクの種類があるのだと想っていたのに、たったこれだけの色でどうやったら表せるのだろうか。

そんなぼくのぎもんをこの本は、ドレミファたんてい事む所は解決してくれた。

特にぼくがおどろいたのは、ルーペを出したときの見え方のちがいだ。あんなにきれいに見えているものが、点の集まりなんて信じられない。ぼくも試してみた。今手に取って見ている本も同じだった。リビングにあるテレビはどうだろう。細い線がぎっしりとならんでいて、その線の上に光の点が走っているように見えた。

もう一つおどろいたことは、赤と青と黄の三原色を使うとほとんどの色を作ることができるということだ。今まで図工の時間に絵の具を使ったときにも、もう少しくくしたい、もう少しすくしたいと想ったときに色をまぜて作ったことがある。けれど、全くちがう色を作ったわけではない。でも、三年生の時に習っていた絵の教室で、フルーツの絵をかいているとき、先生に、

「この色を足すといいよ。」

と、言われたことがある。その色をまぜたら、ぼくが表したいと思っていた色になっておどろいた。

それが三原色だったかとうかはおぼえていないけれど、

だから、この本で、ヨウスケや

アカネ、ミノルやマタザエモンが解決してくれたことは、ぼくにとつてのぎもんへの「なるほど」や「スツキリ」が多くて、読んでいてとても楽しかった。

でもぼくにはまだ解決できていないぎもんがある。

・車に乗っていても、歩いていても、太陽がついてくること

・スイカにしおをふって食べるとなぜかあまくなること。

・お父さんのサングラスは、外から見ると目が見えないのに、サングラスをかけるとよく見える

もしかすると、タブレットで調べてすぐに分かることもかもしれない。お父さんやお母さん、お兄ちゃんに聞いたら教えてくれるかもしれない。でも、ヨウスケやアカネのように自分の目でたしかめて「なるほど」「スツキリ」できるようにしたい。きつとその方が、発見のうれしさや感動は大きいから。それにだれかのぎもんに、自信をもって答えられると思うから。そして、それがだれかのぎもんの発見になるとさらにうれしいから。

それでも解決できないときの最終手段は、ゆう便箱へのちよう戦じよう。。。